

千葉県耐震判定委員会 第〇回判定部会 議事録 (記入例)

建物名称 ○○○○
 部会開催日 ○○○○年○○月○○日
 委員名 ○○委員、○○委員
 診断者 ○○○○

No. 1

No.	指摘事項	対応方針	該当ページ	対応結果
1	X 方向において、現状・補強後とも、全階 F=1.0 で Is を集計しているが (Fu=3.0)、F が 1.0 を超えた時に最大 Is となっている。Is が最大となる時の F 値を採用して、Is を再集計すること。	採用 F 値については、現状は、2 階で F=1.5、3 階で F=2.6 が最大 Is となり、補強後は、2 階で F=2.0、3 階で F=2.6 が最大 Is となります。採用 F 値、Is を修正します。	概要書 P5-59, 60,6-1	左記の修正を行い、 現状は、 2 階 F=1.5、Is=0.73、3 階 F=2.6、Is=1.56 補強後は、 2 階 F=2.0、Is=1.03、3 階 F=2.6、Is=1.58 となります。
2	地下 1 階、地上 3 階建ての建物であるが、診断においては、4 階建てとしていることを明記してください。	地下 1 階、地上 3 階建てであるが、診断においては、4 階建てとしていることを明記します。	概要書	本建物は、南側が地上 3 層、北側が 4 層となっているため、地上 4 階建てとして診断を行うことを明記し差し替えました。
3	圧縮ブレースと引張りブレース耐力の差を中柱のせん断耐力で処理できることを確認してください。	確認します。	P72-1	圧縮ブレースと引張りブレースの耐力差の処理について、問題ないことを追記しました。
4	圧縮側柱の耐力 (Qc2) は期待できないと考え、スタッド及びあと施工のアンカーで決定される耐力の算定には、その耐力を見込まない。ブレース架構の保有耐力において、引張時、圧縮時の sQsu1, aQsu2, sQsu3 が比較できるようにしてください。	圧縮側柱の耐力 (Qc2) を見込まずにスタッド及びあと施工アンカーで決定される耐力を再計算し、架構耐力がブレース耐力で決定されることを確認します。 各耐力を比較できるよう修正します。	P63~73 P72	架構耐力がブレース耐力で決定されることを確認しました。 各耐力を表にまとめました。